

【財団法人 風戸研究奨励会】

財) 風戸研究奨励会 冠シンポジウムを開催

(問合せ先)

東京都昭島市武蔵野3-1-2 日本電子株式会社内
財団法人 風戸研究奨励会
事務局 (渡邊・浜中) TEL:042-542-2106
E-mail: kazato@jeol.co.jp FAX:042-546-9732

(財)風戸研究奨励会 [東京都昭島市武蔵野3-1-2、理事長 田中 通義(東北大学名誉教授)] は、5月20日(日)、日本顕微鏡学会・第63回学術講演会にて冠シンポジウムを開催いたしました。

本シンポジウムの目的は、昭和44年に設立以来、長年に亘り電子顕微鏡をはじめとする顕微鏡に関する研究に携わる若手研究者の方々への研究助成を行ってまいりました本研究財団の活動をより広く知って頂くために企画したものでございます。本企画は、日本顕微鏡学会および日本顕微鏡学会第63回学術講演会実行委員会のご理解を得て、冠シンポジウムという形で、本学術講演会のプログラムの一つとして開催させて頂きました。当日は休日にも関わらず、多数の皆様にご参加いただきました。

【次第】

- ・ 挨拶 財団法人 風戸研究奨励会 理事長 田中 通義

- ・ 「電子顕微鏡の技術開発に関する国の施策について」
文部科学省
研究振興局基礎基盤研究課
ナノテクノロジー・材料開発推進室 室長 高橋 雅之 様
(座長 志水 隆一)

- ・ 「分子生物学の世紀からゲノム・構造生物学そして顕微鏡科学の世紀へ」
立教大学 極限生命情報研究センター センター長 黒岩 常祥 様
(座長 柴田 洋三郎)

- ・ 風戸奨励賞受賞講演 (座長 田中 通義)
 - 1. 「消化管運動調節を司るカハール介在細胞の機能形態学的研究」
福井大学 医学部 形態機能医科学講座 准教授 飯野 哲 様
 - 2. 「STEM直接観察による準結晶の局所構造ゆらぎに関する研究」
東京大学大学院 工学系研究科 マテリアル工学専攻 准教授 阿部 英司 様

【設立の経緯】

本研究財団は、日本電子株式会社の創設者で社長であった風戸健二氏が、電子顕微鏡をつくるために会社を設立して以来、受けた恩顧を社会に還元し感謝の気持ちを示したいと考えられ、1968年日本電子株式会社の創立20周年を記念して私財から日本電子の株券10万株を寄付されたことに基づいております。この寄付を最も有効に使う方法について当時の日本電子顕微鏡学会の主だった人々が親しい方々と相談し、電子顕微鏡及びそれを用いた研究を推進する財団法人を設立することになりました。1968年9月には財団法人風戸研究奨励会設立発起人会が発足し、設立趣意書を採択しました。同年12月、財団法人風戸研究奨励会の設立が当時の文部省より認可され、翌1969年1月にその登記を完了しました。

財団発足と同時に二種類の事業を開始しました。一つは若手の研究者による電子顕微鏡及びそれを用いた研究の奨励であり、もう一つは電子顕微鏡及びそれを用いた研究を国際会議で発表するための援助でした。この二種類の事業は今日に至るまで継続されております。1975年に至り風戸氏は日本電子

株式会社の社長を辞任され、加勢忠雄氏が社長に就任されました。加勢氏は電子顕微鏡及びそれを用いた研究の分野において財団が果たしてきた価値ある役割を理解され、また日本電子株式会社の創立者である「風戸氏」の名前を永く残したいと考え、その当時資金の不足に悩んでいた風戸研究奨励会に対し日本電子より寄付を行い、その活動を継続出来るようにされました。この方針は歴代の社長に引き継がれ、日本電子(株)より定期的に寄付を受けてその活動を行っております。そして、今日まで財団が助成した研究者の総数は518名、金額は約1億2千900万円になっております。今後とも、われわれ風戸研究奨励会の役員一同は、この助成事業を継続し発展させて、若手研究者の育成に微力を尽くしてゆく所存で御座います。



<日本顕微鏡学会 第63回学術講演会 冠シンポジウム>
財) 風戸研究奨励会シンポジウム

以上